



安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2025/08/05 改訂日: 2025/11/26 バージョン: 2.1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid
製品タイプ : Food Safety -- [Food Safety]
製品コード : BMLSCK
Part Number(s) : BMLSCK|400001099|700000005

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 分析用薬剤、化学研究及び開発
使用上の制限 : あるキットのキットコンポーネントを他のキットと一緒に使用しないでください。

会社情報

仕入先

Neogen Corporation
48912
United States of America Michigan Lansing 620 Lesher Place
T 800.234.5333
sds@neogen.com - <https://www.neogen.com/>

輸入業者

ネオジェンジャパン株式会社
220-0012
神奈川県 横浜市西区 みなとみらい 3-3-3 横浜コネクタスクエア
12階
T 045-211-4615

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24 hours:
Medical: 1-800-498-5743 (U.S. and Canada) or 1-651-523-0318 (international)
Spill/CHEMTREC: 1-800-424-9300 (U.S. and Canada) or 1-703-527-3887 (international)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	区分 1

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

健康に対する有害性	鈍性化爆発物	分類できない
	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入：気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	呼吸器感受性	分類できない
	皮膚感受性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)
水生環境有害性 長期 (慢性)		区分 3
オゾン層への有害性		分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 金属腐食のおそれ (H290)
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314)
長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 他の容器に移し替えないこと。(P234)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

: 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)
皮膚 (又は髪) に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
直ちに医師に連絡すること。(P310)
特別な処置が必要である(このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ)。(P321)
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。(P390)

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

保管 : 施錠して保管すること。(P405)
廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
Sodium hypochlorite	≥ 0.5 - < 1	(1)-237	既存化学物質	7681-52-9

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般 : 直ちに医師の診察を受ける。
吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
直ちに医師の診察を受ける。
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
無理に吐かせてはいけない。
直ちに医師の診察を受ける。
応急措置をする者の保護 : First-aiders should pay attention to their own protection and use the recommended personal protective equipment (see section 8).

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合 : 通常の条件下では特に無し。
症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 火傷。
症状/損傷 眼に入った場合 : 眼に重度の損傷を与える。
症状/損傷 飲み込んだ場合 : 火傷。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
火災危険性 : 火災の危険は一切ない。
爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

火災時の危険有害性分解生成物	: 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法	: 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
消火時の保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	: 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
-------	--

非緊急対応者

保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
応急処置	: 漏出エリアを換気する。 皮膚、眼との接触を避ける。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

緊急対応者

保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
応急処置	: 不要な職員を退避させる。 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	: 環境への放出を避けること。
------------	-----------------

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	: 漏出物を回収すること。 流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。 可能であればリスクなく漏出をせき止める。
浄化方法	: 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
その他の情報	: 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	: データなし
安全取扱注意事項	: 作業所の十分な換気を確保する。 皮膚、眼との接触を避ける。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 個人用保護具を着用する。
接触回避	: データなし
衛生対策	: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 製品取扱い後には必ず手を洗う。

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

保管

安全な保管条件	: 耐腐食性/耐腐食性内張りのある耐腐食性 容器に保管すること。 他の容器に移し替えないこと。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	: データなし
技術的対策	: 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
混触禁止物質	: 金属類。
容器包装材料	: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	: 2 - 8 °C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
呼吸用保護具	: 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。
手の保護具	: 保護用手袋
眼の保護具	: 安全メガネ
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	: 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色
臭い	: 塩素、強い
pH	: 13
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: 金属。
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
未知の急性毒性 (GHS JP)	混合物の 98.44%は未知の急性毒性(経皮)の成分で構成されている 混合物の 98.44%は未知の急性毒性(吸入 (粉じん/ミスト))の成分で構成されている
Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1)~(3) より、区分に該当しないとした。【根拠データ】 (1) 水溶液 (有効塩素濃度 12.5%) でのラットの LD50: 雄: 5,230 mg/kg (REACH 登録情報 (Access on October 2020))(2) 水溶液 (有効塩素濃度 12.5%) でのラットの LD50: 8,830 mg/kg (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014)、EURAR (2007))(3) 水溶液 (有効塩素濃度 5.25%) でのラットの LD50: 13,000 mg/kg (EURAR (2007))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 (1)、(2) より、区分に該当しないとした。【根拠データ】 (2) 水溶液 (有効塩素濃度 5.25%) でのラットの LD50: > 2,000 mg/kg (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014)、EURAR (2007))(3) 水溶液 (有効塩素濃度 12.5%) でのウサギの LD50: > 20,000 mg/kg (REACH 登録情報 (Access on October 2020))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】 (1) からは区分を特定できず、分類できないとした。なお、(2) よりミストとして mg/L を単位とする基準値を適用した。【根拠データ】 (1) ラットの LC0 (1 時間): > 10.5 mg/L (4 時間換算値: > 2.63 mg/L) (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014)、EURAR (2007))(2) 本物質の吸入ばく露はエアロゾルの場合のみ可能である (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014)、EURAR (2007))。
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg
LD50 経口	5230 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 20000 mg/kg BW Animal: rabbit, Guideline: OECD Guideline 402 (Acute Dermal Toxicity), Guideline: other:
LD50 経皮	2500 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (蒸気)	> 2.18 mg/l/4h

皮膚腐食性/刺激性 : 重篤な皮膚の薬傷

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
pH	13
Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】(1)～(5)より、区分1とした。【根拠データ】(1)本物質(原液)はウサギを用いた皮膚刺激性試験で腐食性を示し、皮膚刺激性インデックス(PII)は5.08であった。なお、水溶液も高濃度では腐食性を示す(EURAR(2007))。(2)本物質の5%～10%液は刺激性、10%以上で腐食性を示す(EURAR(2007))。(3)本物質のウサギを用いた24時間適用による皮膚刺激性試験で、低濃度(有効塩素濃度5.25%まで)では軽度刺激性、有効塩素濃度12.5～12.7%では中等度から重度の刺激性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。(4)本物質のウサギを用いた皮膚刺激性試験で、有効塩素濃度0.24～6%までの範囲で低濃度では軽度刺激性を示すが、最高濃度では腐食性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。(5)本物質は皮膚と眼に対して、刺激性及び腐食性を有する(GESTIS(Access on August 2020))。【参考データ等】(6)EU-CLP分類でSkin Corr. 1B(H314)に分類されている(EU CLP分類(Access on October 2020))。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 重篤な眼の損傷

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
pH	13
Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】(1)～(4)より、区分1とした。【根拠データ】(1)本物質は皮膚腐食性(区分1)に区分されている。(2)市販の製品(有効塩素濃度12.5%)及び1/2水希釈液はウサギを用いた眼刺激性試験(ドレイズ法)で重度の刺激性を示し、最大刺激性スコア(MAS)はそれぞれ60及び49であった(EURAR(2007))。(3)本物質は高濃度で、眼に対して腐食性を示す(AICIS(旧NICNAS)IMAP(2014))。(4)本物質は皮膚と眼に対して、刺激性及び腐食性を有する(GESTIS(Access on August 2020))。【参考データ等】(5)EU-CLP分類でEye Dam. 1(H318)に分類されている(EU CLP分類(Access on October 2020))。

呼吸器感作性 : 分類できない

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

皮膚感作性 : 分類できない

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
皮膚感作性	【分類根拠】(1)~(3)より、区分に該当しないとした。【根拠データ】(1)本物質の OECD TG 406 に準拠したモルモットを用いた皮膚感作性試験(ビューラー法、適用濃度 40%)で、陰性と報告されている(REACH 登録情報 (Access on September 2020))。 (2)本物質を 8%含有する試料のモルモットを用いた皮膚感作性試験で感作性反応はみられていない(EURAR (2007)、AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。 (3)本物質と界面活性剤の混合液のモルモットを用いた皮膚感作性試験(ビューラー法)で感作性はみられていない(EURAR (2007))。 【参考データ等】(4)225人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで1例のみ、本物質で陽性反応を示した(EURAR (2007))。 (5)69人の接触皮膚炎患者へのパッチテストで陽性反応はみられていない。その他、20人及び40人のヒトパッチテストの結果でも、明確な結果は得られていない(EURAR (2007)、AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。

生殖細胞変異原性 : 分類できない

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しないとした。【根拠データ】(1)in vivo では、マウス腹腔内又は経口投与の骨髄を用いた小核試験で陰性、マウス経口投与の骨髄を用いた染色体異常試験で陰性、ラット経口投与の DNA 損傷試験で陰性の報告がある(EURAR (2007)、NTP TR392 (1992)、Patty (6th, 2012))。 (2)in vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、陽性の結果、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陰性、陽性の結果(EURAR (2007)、NTP TR392 (1992))、姉妹染色分体交換試験で陽性の報告がある(EURAR (2007))。

発がん性 : 分類できない

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
発がん性	【分類根拠】(1)~(3)より、区分に該当しないとした。【根拠データ】(1)国内外の分類機関による既存分類では、IARCで本物質を含む次亜塩素酸塩としてグループ 3 (IARC 52 (1991))に分類されている。(2)雌雄のラット及びマウスに本物質(有効塩素濃度 14%)をラットは 104 週間、マウスは 103 週間飲水投与した発がん性試験において、腫瘍発生率の有意な増加はみられていない(IARC 52 (1991))。 (3)雌マウスに本物質(有効塩素濃度 10%)を経皮適用した発がん性試験において、発がん性はみられていない(IARC 52 (1991))。
IARC グループ	分類できない

生殖毒性 : 分類できない

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium hypochlorite (7681-52-9)

生殖毒性

【分類根拠】本物質のデータはないが、本物質は水溶液中で次亜塩素酸イオンとナトリウムイオンに解離すると考えられる。したがって、次亜塩素酸 (CAS 番号 7790-92-3) のデータを基に分類を行った。(1)~(3) より、概ね生殖影響はないと考えられるが、器官形成期のみ投与した発生毒性のデータがないことから、データ不足のため分類できないとした。【根拠データ】(1) ラットに次亜塩素酸を強制経口投与した 1 世代生殖毒性試験において、毒性の臨床徴候、血液学的変化、体重、精子数、精子運動性、精子形態、生殖器官の病理組織学的病変は認められず、受胎能、胎児生存率、同腹児数、胎児体重、開眼日、臍開口日に用量依存性の影響はみられていない (EURAR (2007)、AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。 (2) 雌ラットに次亜塩素酸を交配前 2.5 ヶ月から妊娠期間中に飲水投与した試験において、母動物毒性、発生毒性はみられていない (EURAR (2007)、AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。 (3) EURAR (2007) では、本物質のデータはない。しかし、次亜塩素酸や塩素を用いた動物試験結果について、データは限られているが、次亜塩素酸ナトリウムは次世代の発生または受胎能に有害な影響を及ぼすことを示唆する証拠はないという結論を導くことが可能と報告されている。同様に、塩素処理された飲料水を摂取している集団に関する疫学研究からも、そのような証拠は得られていないとしている (EURAR (2007))。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 分類できない

Sodium hypochlorite (7681-52-9)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

【分類根拠】(1)、(2) より、区分 3 (気道刺激性) とした。消化器系への影響は本物質の刺激性によるものと考えられるため、採用しなかった。なお、新たな情報源の使用により、旧分類から分類結果を変更した。【根拠データ】(1) 本物質を含む薬剤にばく露されたヒトで、眼及び上気道刺激がみられた (EURAR (2007))。 (2) 本物質を含む少量の塩素系漂白剤の誤飲は食道の炎症を引き起こす可能性があり、高濃度では上気道に重篤な損傷を引き起こし死に至ることがある (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。【参考データ等】(3) 本物質から発生する塩素ガスによって喉に火傷や咳を引き起こす。高濃度ばく露は気道浮腫や閉塞性気管支炎につながる可能性があり、重篤な場合には非心臓性肺水腫が発生する可能性がある (IPCS PIM 495 (1998))。 (4) 本物質を含む漂白剤を誤飲した 66 歳の女性 (誤飲量不明) が 4.5 時間後に心停止で死亡し、剖検では食道及び胃の粘膜びらん、食道胃接合部の穿孔、隣接する軟部組織の広範な壊死を認めた (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014))。 (5) 本物質を誤飲すると吐き気、嘔吐を伴う胃腸の炎症がみられ、大量の摂取の場合では、胃の腐食性損傷、高塩素血症性アシドーシスを伴う高ナトリウム血症がみられる (IPCS PIM 495 (1998))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: 分類できない

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】 (1)、(2) より次亜塩素酸ナトリウムの経口及び経皮経路の反復投与毒性は低いと考えられるが、吸入ばく露による呼吸器への影響が不明であるため、分類できないとした。情報源の情報を見直し、旧分類から分類結果を変更した。【参考データ等】 (1) 本物質 (有効塩素濃度 14%) を用いた飲水投与試験では、ラット、マウスに 90 日間及び 2 年間投与した場合も摂水量低下に伴うものと考えられる体重増加抑制がみられたのみである (EURAR (2007)、SIAR (2006))。 (2) マウスに本物質の水溶液を 51 週間 (週 2 回) 経皮適用した試験で、投与に関連した影響はみられなかった (AICIS (旧 NICNAS) IMAP (2014)、EURAR (2007)、SIAR (2006))。

誤えん有害性 : 分類できない

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
誤えん有害性	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 : 水生生物に有害、長期継続的影響によって水生生物に有害。
水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に有害
水生環境有害性 長期 (慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に有害

Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
水生環境有害性 短期 (急性)	甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属の一種) の 24 時間 LC50 = 5 µgFAC/L (EURAR, 2007) から、区分 1 とした。 (FAC = free available chlorine)
水生環境有害性 長期 (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、本物質は無機化合物であり、急速分解性に関する適切なデータは得られておらず、魚類の 134 日間 NOEC = 5 µgTRC/L (EURAR, 2007) であることから、区分 1 となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、本物質は無機化合物であり、急速分解性に関する適切なデータは得られておらず、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属の一種) の 24 時間 LC50 = 5 µgFAC/L (EU-RAR, 2007) であることから、区分 1 となる。以上の結果から、区分 1 とした。 (TRC= total residual chlorine, FAC = free available chlorine)
LC50 - 魚 [1]	0.033 – 0.097 mg/l Source: International Uniform Chemical Information Database
EC50 - 甲殻類 [1]	0.005 mg/l
EC50 - 甲殻類 [2]	35 µg/l Test organisms (species): Ceriodaphnia dubia
EC50 72h - 藻類 [1]	0.036 mg/l
EC50 72h - 藻類 [2]	0.0183 mg/l Test organisms (species): Raphidocelis subcapitata (previous names: Pseudokirchneriella subcapitata, Selenastrum capricornutum)
NOEC 魚 慢性	0.005 mg/l

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

残留性・分解性

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
残留性・分解性	急速分解性でない
Sodium hypochlorite (7681-52-9)	
残留性・分解性	急速分解性でない

生体蓄積性

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
生体蓄積性	データなし

土壌中の移動性

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

その他の有害な影響

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制


UN RTDGに準ずる

国連勧告 (UN RTDG)	
国連番号	3266
国連正式品名	その他の腐食性物質（無機物）（液体）（アルカリ性のもの） (Sodium hydroxide, Sodium hypochlorite)
輸送危険物分類	8

安全データシート

Microbial Luminescence System (MLS) Weekly Cleaning Kit- Protein Removal Fluid

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

国連勧告 (UN RTDG)	
	
容器等級	II
環境有害性	環境有害性：非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

海上規制情報	： 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	： 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	： 154
その他の情報	： 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	： 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条）
水質汚濁防止法	： 指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3）
海洋汚染防止法	： 有害でない物質（施行令別表第1の2） 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）
船舶安全法	： 腐食性物質（危規則第2, 3条危険物告示別表第1）
航空法	： 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
港則法	： その他の危険物・腐食性物質（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）
労働基準法	： 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）
規則参照	： 記載なし—米国 TSCA (有害物質規制法)インベントリー

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。